



歴史ある棚田を再生へ～中田の棚田再生プロジェクト～

紀美野町中田地区には歴史ある棚田が残されています。この棚田を再生させようと有志が「中田の棚田再生プロジェクト」を立ち上げました。このプロジェクトのメンバーとして活動されている南出典子さん、前畔邦彦さん、紀美野町「地域おこし協力隊」の行年さんと清水さんにお聞きしました。



由緒ある棚田の危機
生石高原の麓にある中田地区の棚田は歴史が古く、約600年前に記された高野の古文書にも載っています。地域の人が代々その棚田を守り続けてきたが、後継者不足や担い手の高齢化により耕作放棄地が増え、お米や野菜、柚子などをわずか3軒が栽培するのみに。この危機的な状況をなんとかして、棚田を守り、つないでいくことに熱い想いを抱いた人たちが立ち上がりました。

協議会発足と地域おこし協力隊の加入
3年前に棚田の保全を目指す「棚田地域振興法」が施行されたことを契機に、行政も参画した「小川地域棚田振興協議会」が設立さ

棚田サポーターズの活躍
プロジェクトのメンバーだけでは人手が足りないため、協議会では再生活動を支援するボランティア「棚田サポーターズ」の募集を始めています。現在は52名が活躍しています。

棚田で楽しく
棚田のファンづく

可能性を持つ棚田
ほかに地元の小学生たちが、棚田で麦を題材に脱穀作業、麦播きなどの体験学習をおこないました。



中田の棚田

再生プロジェクトが立ち上がり、2年前には、地域おこし協力隊が加わり、メンバーの1人は「都会の暮らしに疑問を持ち始め、自然に恵まれたところで住みたい」と思い、紀美野町に移住してきました。移住体験ツアーで協議会の会長さんと出会い、協力隊になることを決めた。協力隊に着任すると、地元の人たちが暖かく迎えてくれました。プロジェクトにとって地域おこし協力隊は貴重な戦力となっています。



キャンプファイヤー



棚田deマルシェ

可能性を持つ棚田
ほかに地元の小学生たちが、棚田で麦を題材に脱穀作業、麦播きなどの体験学習をおこないました。

可能性を持つ棚田
ほかに地元の小学生たちが、棚田で麦を題材に脱穀作業、麦播きなどの体験学習をおこないました。

可能性を持つ棚田
ほかに地元の小学生たちが、棚田で麦を題材に脱穀作業、麦播きなどの体験学習をおこないました。

可能性を持つ棚田
ほかに地元の小学生たちが、棚田で麦を題材に脱穀作業、麦播きなどの体験学習をおこないました。

可能性を持つ棚田
ほかに地元の小学生たちが、棚田で麦を題材に脱穀作業、麦播きなどの体験学習をおこないました。

可能性を持つ棚田
ほかに地元の小学生たちが、棚田で麦を題材に脱穀作業、麦播きなどの体験学習をおこないました。

可能性を持つ棚田
ほかに地元の小学生たちが、棚田で麦を題材に脱穀作業、麦播きなどの体験学習をおこないました。

可能性を持つ棚田
ほかに地元の小学生たちが、棚田で麦を題材に脱穀作業、麦播きなどの体験学習をおこないました。



草刈りのレクチャーの様子



田植え体験

小川地域棚田振興協議会
中田の棚田再生プロジェクト
海草郡紀美野町神野市場 226 番地 1
電話：073-495-3462
(紀美野町役場まちづくり課内)
Mail：info@kiminoriceterrace.com

触れてください」と力強く語ってくれました。(森下和紀)

子どもを支える取り組み…制服リユースショップ「KAKAYA」

前号で「見えない苦しみを抱える子どもたち」をご紹介しました。こうした方を支えるための取り組みが各地で行われています。事例をご紹介します。

NPO 法人はぐくみが運営する制服リユースショップ「KAKAYA」は、和歌山市周辺の中学校・高校の制服や体操着のリユースと販売をおこなっています。

卒業などで不要になった制服や体操着などを和歌山市周辺に設置している回収ボックスで集め、クリーニングや補修をおこない、割安で販売するこの事業。和歌山県以外では少しずつ始まっていましたが、和歌山県内で本格的に始まったのは2020年からとまだ最近のことです。

趣旨を説明し、賛同を得た企業等に制服等の回収ボックスを設置。回収された服は学校ごと・サイズごとに選別します。

なかには補修が必要な服もあります。そうした服は、縫製業者に勤めた経験のある方や、介護施設で手先の器用な利用者の方の協力を得て補修しています。高齢者のみなさんのリハビリの代わりにもなっているそうです。補修した後にクリーニングして、販売できる状態に上げていきます。

最初は空き家を借りて保管していましたが、2,000着を超えて収まりきらなくなり、いまではビルの1フロアを借りるまでになっています。

リユース制服は、経済的事情を有する世帯だけではなく、成長期で急に身長が伸びるなどして買い替えを余儀なくされる場合、転倒などにより傷んでしまった場合、雨天時などの予備として持っておきたい場合など、様々なニーズに対応しています。これまでは、制服は購入するか、知人や親類等から譲ってもらうかして入手していましたが「第3の方法としてリユース制服があることを知ってもらいたい」とNPO

法人はぐくみ代表の木野さんは話しています。

NPO 法人はぐくみは、内閣府などが提唱している「子供の未来応援国民運動」と国連SDGs(持続可能な開発目標)の趣旨に賛同し、リユース制服事業を通じた子育て世帯の支援、制服の修繕活動を通じた高齢者の社会参加の機会確保など複数の事業を組み合わせながら、産官民の連携による社会貢献を図っていく計画です。進学・進級シーズンを前にしたこの時期はリユース制服のニーズが高まっています。もしお子さんが中学校や高校を卒業して制服が不要になった場合、可能であればリユース制服としての提供を検討していただければ幸いです。



ところ狭しと並べられたリユース制服 (写真提供：NPO法人はぐくみ)

NPO 法人はぐくみ 制服リユースショップ「KAKAYA」
〒640-8322 和歌山市秋月 563-5 和ビル3F (日宮南側、三差路の角)
TEL 080-6114-9578 (必ず事前予約をお願いします。在庫確認も可能です)
営業時間 平日 15:00～18:00 (水曜休み)、土・日・祝 10:00～17:00
URL <http://kakaya2020.com/>

和歌山市NPO・ボランティア推進協議会だより

販売 | 自宅でできる袋有機野菜栽培セット

販売日 3月12日(土)～
内容 ベランダや駐車場でも袋で有機野菜作りができる栽培セット(イチゴ、スナップエンドウ、ジャガイモ)
対象 有機農業に関心のある方
価格 1セット600～1,500円(品種により異なります)
定員 10組(各品種1袋まで)
主催 農業体験農園「イキイキファーム」(073-471-8360・山本さん)

イベント | まちなか百姓養成塾

日時 3月16日(木) 18:30～20:00
場所 和歌山市地域フロンティアセンター会議室(フォルテワジマ6階)
内容 奇数月の第3水曜日に開催している野菜づくりの学習会。今回は有機農法による春野菜の栽培について。
参加費 500円(資料代)
定員 20名(事前申し込み必要)
主催 わかやまイネ!プロジェクト
waiprojimu@gmail.com
備考 以降も奇数月第3木曜日に開催。

イベント | 第16回旧中筋家寄席

日時 3月19日(土) 13:30～15:30
場所 旧中筋家住宅(和歌山市禰直)
内容 こども落語、わかやま楽落会による落語などの寄席芸
参加費 無料(旧中筋家住宅入館料100円が必要)
定員 25名
主催 わかやま楽落会 katoku0716@outlook.jp